

A Dシンポジウム2012
「東日本大震災を経験して、今後望まれる
アクセシブルデザイン・福祉用具」
～発災から1年経過した今だからわかる
より多くの人から求められる製品やサービス～

■プログラム■

日 時	2012年2月13日(月) 13時30分～16時30分(予定)
場 所	独立行政法人住宅金融支援機構 本店 1階 すまい・るホール
司会・進行	アクセシブルデザイン推進協議会 (公益財団法人テクノエイド協会 常務理事) 本村 光節氏
コーディネータ	シルバー産業新聞 編集長 安田 勝紀氏
パネリスト	石巻地域総合生活支援センター 相談支援専門員 早坂 明子氏
	公益財団法人日本盲導犬協会 仙台訓練センター 原田 敦史氏
	東日本大震災全難聴対策本部事務局次長 小川 光彦氏

■講 演 13:30～15:05

講演タイトル	講演者
災害時に必要なモノや支援(サービス) ～肢体不自由、知的障害、精神障害の視点から～	石巻地域総合生活支援センター 相談支援専門員 早坂 明子氏
大震災を経験して、視覚障害のある人が 必要とするモノや支援(サービス)	公益財団法人日本盲導犬協会 仙台訓練センター 原田 敦史氏
聴覚障害のある人に対する災害時に 必要な製品やサービス、情報について	東日本大震災全難聴対策本部事務局次長 社団法人全日本難聴者・中途失聴者団体連合会 理事・情報文化部副部長 小川光彦氏

■休 憩 15:05～15:15

■パネルディスカッション 15:15～16:30

東日本大震災を経験して、今後望まれるアクセシブルデザイン・福祉用具

コーディネータ:

シルバー産業新聞 編集長 安田勝紀氏

パネリスト:

石巻地域総合生活支援センター 相談支援専門員 早坂 明子氏

公益財団法人日本盲導犬協会 仙台訓練センター 原田 敦史氏

東日本大震災全難聴対策本部事務局次長

社団法人全日本難聴者・中途失聴者団体連合会 理事・情報文化部副部長 小川光彦氏

*当日は一部内容を変更する場合がございます。予めご了承ください。

(別紙2)

【コーディネータ】

安田 勝紀 氏

株式会社シルバー産業新聞社編集長。

1949年、奈良県生まれ。1975年立命館法学部卒業、同年ドラッグマガジン入社。

1995年11月「シルバー産業新聞」を創刊。1999年9月シルバー産業新聞社設立、同紙編集発行人として現在に至る。

独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構「福祉用具実用化推進事業」評価委員。

テクノエイド協会「福祉用具臨床的評価事業」苦情処理・サーベイランス部会委員。

福祉用具国民会議運営メンバー。

今回の東日本大震災において、初期の段階で被災地に入り精力的に取材を行った安田勝紀氏。被災地の高齢者や障害のある人、また支援する人や団体等とのかかわりを通じて知った本当に使えるモノやサービスとは何かを説き、いま私たち一人一人ができることについて伺います。

【講演者】

早坂 明子 氏

石巻地域総合生活支援センター 相談支援専門員

1981年宮城県生まれ。

2004年東北文化学園専門学校・東京福祉大学通信学部卒業、社会福祉士取得。同年4月社会福祉法人石巻祥心会入社、石巻地域総合生活支援センター配属、現在に至る。その間、同法人知的障害者入所施設に1年半配属。

宮城県障害者自立支援協議会相談支援事業所部会検討委員。

女川町障害程度区分認定審査会委員。

石巻地域総合生活支援センターは石巻市、女川町の指定相談支援事業所として主に障害のある人達の相談業務を行っています。今回の大震災では、障害のある人一人一人を訪問し、状態確認や住まいの相談を中心とした支援活動を展開しています。また5月～9月にかけて避難所と在宅の障害のある人、約1260名を訪問して聞き取り調査を行った結果報告は他には類をみない内容となっています。肢体不自由、視覚障害、精神障害、知的障害などあらゆる視点から、災害時に必要な支援についてご報告をいただきます。

原田 敦史 氏

公益財団法人 日本盲導犬協会 仙台訓練センター
リハビリテーション事業部 マネージャー
1971年6月11日生 愛知県名古屋市出身
1995年3月 東北福祉大学 卒業
1995年4月 国立身体障害者リハビリテーションセンター 就職
国立函館視力、国立神戸視力を経て
2007年3月 退職
2007年4月 公益財団法人 日本盲導犬協会 仙台訓練センター
2011年8月 現在 リハビリテーション事業部 マネージャー

日本盲導犬協会仙台訓練センターは、盲導犬の育成と視覚障害のある人のリハビリテーション事業を通して視覚障害のある人の社会参加の促進等を行っている団体です。
今回の震災を経験して、同センターのマネージャーとして、また日本盲人福祉委員会（東京都新宿区）支援対策本部として多くの視覚障害のある人が必要であった情報提供の在り方についてご報告をいただきます。
阪神大震災の時にも指摘を受けていた「災害時における情報提供」について、どのような媒体（モノ）でどのような支援（サービス）が役立ったか、また今後望まれるモノやサービスについて伺います。

小川 光彦 氏

社団法人全日本難聴者・中途失聴者団体連合会 理事・情報文化部 副部長
東日本大震災全難聴対策本部事務局次長
1985年 明治大学文学部日本文学専攻卒業
2004～2010年 聴覚障害に関する総合情報誌「いくお～る」編集長

東日本大震災において、聴覚障害のある人がどのように情報を入手したか、またどのような情報提供が助かったかを伺いながら、災害時における有効的な情報やコミュニケーション支援の方法について報告をいただきます。
聴覚障害のある人達への被災地三県の発災から今日まで、そしてこれからについて、聴覚障害という当事者の立場からのお話伺います。